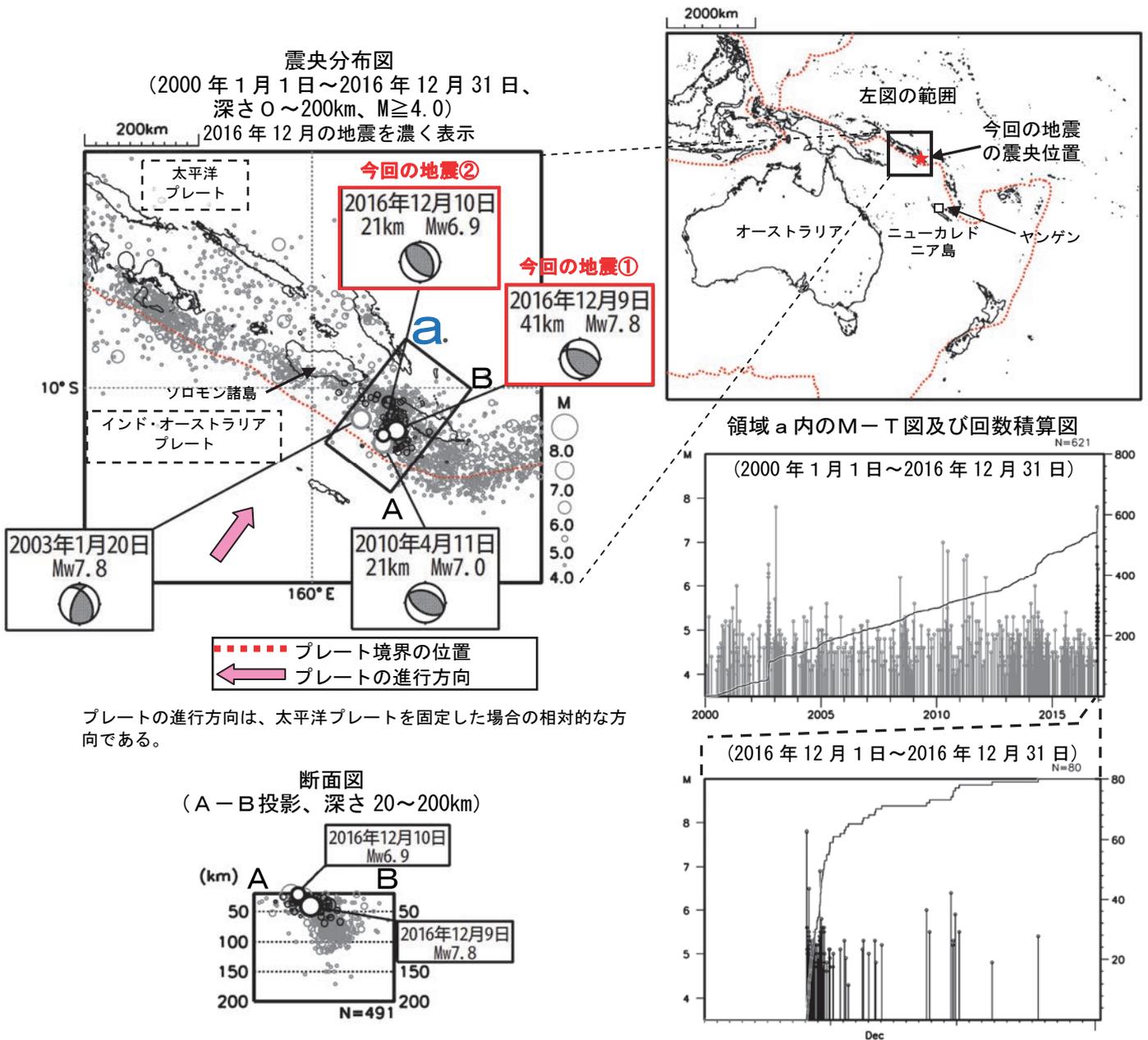


12月9日、10日 ソロモン諸島の地震

2016年12月9日02時38分(日本時間、以下同じ)にソロモン諸島の深さ41kmでMw7.8の地震(今回の地震①)が発生した。この地震の発震機構(気象庁によるCMT解)は、北東-南西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、インド・オーストラリアプレートと太平洋プレートの境界で発生した。この地震により、死者1人の被害が生じた。その後、10日04時10分には、今回の地震①の近傍の深さ21kmでMw6.9の地震(今回の地震②)が発生するなど周辺で地震活動が活発になっている。

気象庁は、地震①について、9日03時02分(日本への津波の有無について調査中)と同日05時10分(日本の沿岸では被害の心配なし)に遠地地震に関する情報を発表した。この地震により、ニューカレドニア島のヤンゲンで43cmの津波を観測した。また、地震②について、10日05時05分(この地震による日本への津波の影響はありません)に遠地地震に関する情報を発表した。この地震により、リフ島(ニューカレドニア)で5cmの津波を観測した。

2000年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域a)では、M6を超える地震が時々発生しており(M7を超える地震は今回の地震を含め2回)、2003年1月20日のMw7.8の地震では、現地で微弱な津波が観測されたが、被害は生じなかった。



プレートの進行方向は、太平洋プレートを固定した場合の相対的な方向である。

※本資料中、今回の地震①②の発震機構とMwは気象庁による。その他の地震の発震機構はGlobalCMTによる。震源要素とその他の地震のMwは米国地質調査所(USGS)による。今回の地震①②の津波の観測値は、アメリカ海洋大気庁(NOAA)による(12月31日現在)。今回の地震①の被害は、OCHA(UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs: 国連人道問題調整事務所)による(2016年12月31日現在)。プレート境界の位置と進行方向はBird(2003)*より引用。

*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.